

「葛飾区少年の主張大会」が
開催されました

平成23年11月19日、かつしかシンフォニーホール・アイリスホールにおいて、応募総数541人の中から選ばれた小学生19人・中学生6人、計25人が、それぞれの主張を発表しました。結果は次のとおりです。

小学生の部
最優秀賞

- 柳 美夢(やなぎ みゆ・綾南小6年)
- 「安全を最優先に」
- 和波 達哉(わなみ たつや・中之台小6年)
- 「勇気を出して伝えよう」
- 優秀賞
- 今 聖花(こん きよか・葛飾小6年)
- 「地球を守ろう」
- 関澤 秀斗(せきざわ しゅうと・白鳥小6年)
- 「命の大切さ」
- 須郷 はる花(すごう はるか・半田小6年)
- 「私の夢」
- 橋本 夏帆(はしもと かほ・幸田小6年)
- 「日本人として」
- 石田 文久(いしだ ふみひさ・中青戸小6年)
- 「残さず食べることの大切さ」

入選

- 関谷 未祐(せきや みゆ・本田小5年)
- 多賀 陽七海(たが ひなみ・よつぎ小5年)
- 宮本 麻菜(みやもと まな・松上小6年)
- 北澤 快太(きたざわ かいた・水元小6年)
- 高橋 優果(たかはし ゆか・木根川小6年)
- 萩原 萌夏(はぎわら もえか・こすげ小6年)
- 徳安 伽南(とくやす かな・上小松小6年)
- 久保田 三奈(くぼた みな・奥戸小6年)

中学生の部
最優秀賞

- 原 美月(はら みづき・鎌倉小6年)
- 池田 美帆(いけだ みほ・北野小6年)
- 中島 杜磨(なかじま とうま・北野小6年)
- 大石 悠梨(おおいし ゆうり・柴原小6年)
- 石田 凌(いしだ りょう・水元中3年)
- 「傍観者ではなく、濁流に架かる橋のように」
- 優秀賞
- 安田 愛鈴(やすだ あいり・桜道中2年)
- 「あきらめない心が作る強い力」
- 平野 紗妃(ひらの さき・青戸中3年)
- 「日本の力で」
- 入選
- 宇佐美 太朗(うさみ たらう・都立百鶴高付属中1年)
- 葛山 和奏(かつやま わかな・中川中2年)
- 鈴木 和(すずき のどか・綾瀬中3年)

(敬称略・同一賞内の順番は発表順)

地域教育課 ☎(5654) 8482



小学生の部・最優秀賞

勇気を出して伝えよう

中之台小学校6年 和波 達哉

みなさんは、日本の未来がどうあつてほしいと思いますか？ ぼくは、母の体験と、ぼくが実際に経験した二つのことから、考えたことをお話ししたいと思います。

まず、母から聞いた、ぼくが母のお腹にいた頃の事です。当時、父の働いていた会社にフランスから、ヨアンさんという二十歳の留学生在が、日本の企業について勉強に来ていました。日本が大好きなヨアンさんを、父と母で東京見物に連れて行った帰りの、電車の中での出来事です。母は妊娠七カ月、車内は少し混んでいて、座る場所はなく、立っていました。すると、ヨアンさんが座っていた20代の男性に、「この人、お腹に、赤ちゃん、います。かわって、下さい。」と、片言の日本語で、いつもの優しい雰囲気とは別人のように厳しく言いました。その男性は、「あ、どうぞ。」とあわてて席を立ち、母は席に座ったそうです。突然、外国人に席をかわるように言われた男性も驚いたと思いますが、母自身も今まで「かわってくださ

い。」と、はつきりと言う人には出会ったことがなく、とても驚くとともに、尊敬したと言っていました。ヨアンさんは「フランス人は、みんな、席かわります。日本人は、かわらないのですか?」と不思議がっていたそうです。ぼくは、お腹の大きい母に気付き、大変そうだなと感じた人がいたと思います。でも、言葉に出せずにいたのではないのでしょうか。

次にぼくの体験から、こんなことがあります。た。ぼくがよく利用する、新御茶ノ水駅には、エスカレーターのない、長い階段があります。ある日、80代くらいのおばあさんが、両手に大きな荷物を持ち、階段をゆっくりとのぼっていました。ぼくは、重そうだなと思い、「荷物持ちましょうか?」と言いました。でも、「あ、大丈夫よ。」と言われたので、手伝うことはしませんでした。ぼくは後から、おばあさんは、本当は手伝ってほしい気持ちがあつたけれど、

遠慮したのかもしれないなと思いました。だから、一度断られても、あと一歩勇気を出して、「でも、お手伝いしますよ。」と伝えていたら、おばあさんは遠慮しないで頼めたのではないのでしょうか。

ヨアンさんには、日本人が冷たく写ったことでしょうか。だから、シルバースーツに限らず、自分と同じ年代の人が座っていることに腹が立ったのかもしれない。でもぼくは、日本人は冷たいのではなく、「相手が迷惑かな。」と逆に遠慮して、言葉に出す勇気がない人が多いのだと思います。言葉にして伝えるということが、とても勇気がいることですが、日本の未来にとって、とても大切なことです。

一人一人が、相手が今どんな気持ちでいるのかを想像し、自然に優しい言葉かけをすることができる世の中になれば、妊婦さんや、お年寄りなどみんなが住みやすい世の中になります。また、相手の心の痛みを想像すれば、いじめや虐待など起こりません。

そんな優しさにあふれた未来になるように、ぼくも相手の立場に立つて考えることができ、自然に優しい言葉をかけられる人になります。勇気を出して気持ちを伝えることで、優しさにあふれた日本を、ぼくたちで作っていきましょう。

※なお、最優秀賞の作文については、葛飾区ホームページにも掲載しています。

「少年の主張全国大会」の結果について

今年度の少年の主張全国大会において、葛飾区から次の方が入賞しました。
(都知事賞受賞後、関東甲信越ブロック代表3人に選ばれ、全国大会に出場)
国立青少年教育振興機構理事長賞
齊藤 麗香(さいとう れいか・常盤中2年)

「家族の本当の意味」
※齊藤さんが発表した作文は、『独立行政法人国立青少年教育振興機構 子どもゆめ基金』のホームページに掲載されています。